



発達保障をめざす

保育実践・療育実践交流集会

2月16日(日) 10:30~15:30

zoom ミーティングによる
オンライン集会

「いまこそ、実践でつながろう」を合言葉に保育園や幼稚園、こども園などの通常の施設と専門施設といわれる児童発達支援や放課後等デイサービスなどの場の違いをこえて、障害があることが明らかな子どもや発達が気になる子どもへの実践を交流する学習会です。午前は講演に学び、午後は実践報告を聞いて参加者みんなで討論します。

午前の部 10:30~12:00

講演 保育及び療育の役割と 実践のなかで大切にしたいこと

講師 松原巨子さん
(発達相談員)

私は大津市の0歳から15歳までの子どもたちへの発達相談に携わってきました。仕事をしてきたのは、乳幼児健診、療育の場であるやまびこ園教室、保育園・幼稚園への巡回相談、それから幼児から小中学生までの発達障がい児対象の子ども発達相談センターです。よく、小さいころから相談を受けていた保護者が子育てを振り返って語ってくださいます。そんなOB保護者の皆さんや保育士さんや保健師さんと一緒に取り組んできたことが財産です。

(おもな著書 白石恵理子・松原巨子・大津の障害児保育研究会「障害児の発達と保育」近藤直子ほか編「保育者のためのテキスト障害児保育」の「自閉症」の節)

松原さんからのメッセージ

子育てと保育、療育をめぐる現状が時代とともに大きく変わりつつあり、保護者、子ども、療育、保育、幼児教育の多様化に対して、どう「みんなのねがい」をつなげるのかが問われていると思います。

- ① 保護者の就労を保障しつつ、障害のある子どもの保育と療育、保護者への早期支援の質を高めていくこと
- ② 保育園やこども園の保育そのものが多様化しているもて、「保育上の配慮を必要とする子どもたち」の実態をつかむことの大切さと支援の手立て
- ③ 現行の「障害児保育制度」だけでは保育の質そのものが確保できない問題点

様々な自治体で、保育や療育の現場に同様の矛盾や課題があると思います。大津市の相談や支援が必要な子どもたちの全数把握ができる条件を活用して療育保育の実態を踏まえて、公的な支援と様々な民間の支援とが手をつなぐことの大切さも考えたいと思います。真の「子どものねがい」に応える保育療育を追究するために、全国の皆さん、一緒に交流しましょう。

午後の部 13:00~15:30 ふたつの報告を聞いて参加者みんなで討論しましょう

実践報告 1 毎日通園の児童発達支援の実践

安心できる保育者とともに「やってみようかな」というあそびをたっぷりと (仮)
名古屋・東部地域療育センターほけっと 今井悠月さん

実践報告 2 児童発達支援での並行通園児～集団療育・個別療育・保護者支援

保護者と共有する子ども理解が子育てと療育実践、保育実践につながる (仮)
福山・「ゼノ」こぼと園 光野帆乃夏さん

【参加方法】 定員300名

申し込みは 2月9日(日)まで

○下記QRコードもしくはURLにアクセス、必要事項を記入してください。折り返し届く受付完了のメールで参加費の送金先をご案内します。

○参加費2,000円(1人あたり)を指定の口座に送金してください。2月12日以降に参加のためのURLと資料を送ります。



<https://torm.run/@jissen2025>

主催 NPO法人発達保障研究センター 協賛 全国障害者問題研究会

連絡先 〒162-0801 新宿区山吹町4-7 新宿山吹町ビル 全障研内

問い合わせ npocenter@nginet.or.jp

電話 080-4332-2601 (平日9時~17時)